公益社団法人 応用物理学会

The Japan Society of Applied Physics（JSAP）

D&I・国際交流委員会

D&I・International Relations Committee

https://www.jsap.or.jp/gender-equality

活動概要

Committee's activities for D&I・International Relations

委員会の活動目標

ダイバーシティ＆インクルージョンを推進することにより、個が尊重され、各々の才能を十分に発揮できる社会の実現を目指し、様々な活動を行っています。応用物理学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、国際交流、社会の活性化に貢献します。

委員会の沿革

2001年2月　男女共同参画ネットワーク準備委員会を発足
2001年7月　「男女共同参画委員会」設立
2006年3月　「人材育成・男女共同参画委員会」へ発展的改称
2011年4月　「人財育成・教育事業委員会」へ改編
2012年2月　「人材育成委員会」へ改称
2015年3月　「男女共同参画委員会」へ改編
2022年3月「ダイバーシティ＆インクルージョン委員会」へ発展的改称
2025年4月「D&I・国際交流委員会」へ発展的改組
　　多様性の尊重と国際的連携を一体的に推進し、
　　よりインクルーシブな科学コミュニティの形成を目指す

公開シンポジウム・無料チュートリアルの開催

毎年、春季学術講演会でダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）に関わる公開シンポジウムを対面＋オンラインで開催しています。
シンポジウムでは、性別・経歴・国籍を超えて誰もが能力を発揮できる社会の実現を目指し、D&Iに関連する様々なテーマを取り上げています。
ここ数年では、若手のキャリアパス、中高生からの理系人材育成、国際人材の活躍などを題材に講演・パネルディスカッションを行いました。

＜最近のシンポジウムテーマ＞

2021年：時代の変革期こそ応用物理分野を輝かせよう
2022年：ジェンダード・イノベーションを通して考える応用物理の男女共同参画
2023年：多様な視点から進むダイバーシティ＆インクルージョン
2024年：若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか？
2025年：理工系人材の枯渇危機をどう乗り越えるか?!
　　～15 歳からのキャリアパスを考える～
2026年：国際性あるダイバーシティ実現へ：
　　学術・産業の場におけるダイバーシティ＆インクルージョンを考える

＜チュートリアルセッションのテーマ＞

2024年：D&Iを目指す事例紹介：「大学入試への女子枠導入」を経験して

2027年3月は、ウェルビーイングを通したD&Iへの科学技術の貢献を紹介するシンポジウムを予定しています。

表彰事業



2009年～2021年に実施した「女性研究者研究業績・人材育成賞（小舘香椎子賞）」を発展させ、2022年に「応用物理学会ダイバーシティ＆インクルージョン賞（D&I賞）」を新設しました。研究業績・人材育成に加え、多様性の尊重とインクルージョン推進を通して応用物理分野を活性化する貢献があった研究者・組織を顕彰しています。

国際交流


Activities for Diversity and Inclusion in the Japan Society of Applied Physics
CHIKUMOTO, Noriko[1,2,3], SHOJI, Ichiro[1,4], MATSUKI, Nobuyuki[1,5]
Contents
- Our activities as the Gender Equality Committee (2001-2021)
- Start of the Diversity & Inclusion Committee (2022)
- Establishment of new awards and recent activities

2002年にInternational Union of Pure and Applied Physics（IUPAP）– International Conference on Women in Physics（ICWIP）に日本物理学会と合同で講演した後、同会議やGender Summit（GS）等で講演を行っています。応用物理学会D&I・国際交流委員会の活動紹介の他、各種データに基づく分析・考察を通じてD&Iの現状と課題について国内外へ発信しています。

女子中高生の理系進路選択支援



女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、2008年から「女子中高生夏の学校」へ参加しています。キャリア講演、サイエンスアドベンチャーでの実験、ポスターセッション等を通して多くの女子中高生の皆さんと交流し、応用物理の魅力を伝えています。

ネットワークの場の提供



学術講演会の際に、多くの会員が性別・国籍・分野を問わずつながりを作ることができる場を提供しています。

・NEWMAP
　（NEtwork for Women and Men in Applied Physics）
・President's Reception for Open Networking in Applied Physics

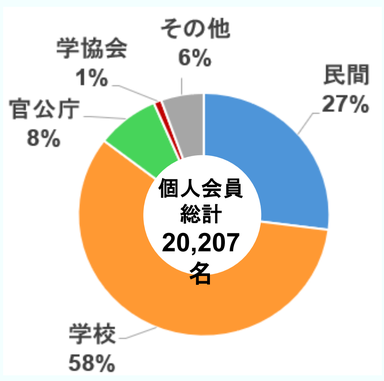
勉強会・調査活動の実施と情報の発信

D&Iの現状把握のための勉強会やアンケート分析等の調査活動を行っています。これらの活動やシンポジウム等の委員会活動につき学会誌「応用物理」に記事を掲載するとともに学会webサイトの委員会ページにて情報発信しています。

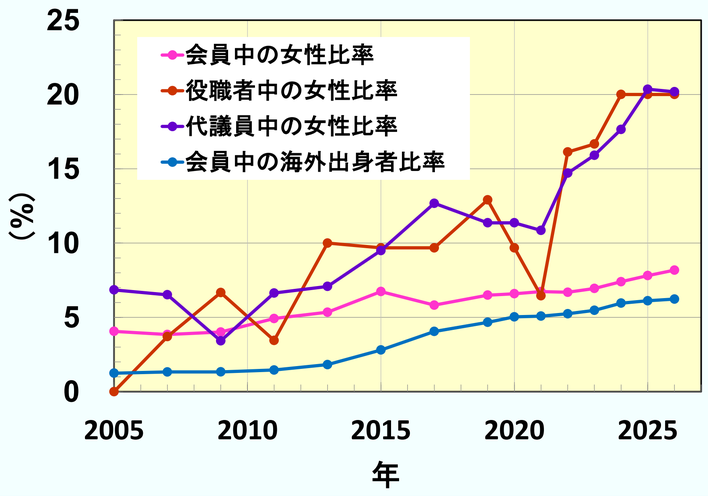


応用物理学会とは？

工学と物理学の接点にある最先端の研究課題、学際的なテーマに取り組み、日本の科学技術を牽引しています。会員数は約2万人で、大学・公的研究所の会員に加え、民間企業の研究開発部門に所属する技術者・研究者が重要な役割を果たしています。年2回の学術講演会は国内最大級で、海外の研究者も含めて約1万3千人（春秋合計）もの参加者が集まります。英国物理学会出版局（IOP Publishing）と提携して国際的英文論文誌JJAPとAPEXを刊行しています。



会員内訳



応用物理学会員の女性割合及び海外出身者（※母国語が日本語以外）の割合は年々増加しています。女性会員の比率は約8%ですが、会長・副会長・理事等の役職者および代議員の女性比率は2025年には20%に達しました。今後、女性会員の活躍とともに、海外出身者の活躍がさらに進むよう、委員会活動を展開していきます。